

## 令和3年度イノシシ管理検討委員会会議録

開催日時：令和3年7月14日（水）10：00～12：00

開催場所：アイーナ 812 研修室（盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号）

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
  - (1) 令和2年度イノシシ管理対策の実施状況について
  - (2) 令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告について
  - (3) 令和3年度イノシシ管理対策について
  - (4) 第3次イノシシ管理計画策定に向けた検討について
  - (5) その他
- 4 閉 会

青井委員長が欠席のため、規約に基づき、委員長から指名された宇野委員が議事を進行した。

### 【宇野委員】

岩手県ではイノシシの生息域が拡大し、令和2年度の捕獲頭数は662頭と年々上がっていますが、農業被害が増え続けており、県の特定計画策定に向けた大切な議論の場になればと思っていますので、短い時間ですが忌憚のない意見ををお願いします。

それでは議事に入ります。議題1「令和2年度イノシシ管理対策の実施状況」及び議題2「令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告」について関連がありますので事務局から一括説明をお願いします。

### 【事務局】

（資料1・2により説明）

### 【宇野委員】

では、議題1は昨年度の報告ですけれども、確認事項等ありましたらよろしくをお願いします。

### 【藤本委員】

4ページの農業被害額の推移について、その他として花卉が減った一方で、果樹の被害が増えたという事でしたが、果樹が増えた要因はありますか。

### 【事務局】

果樹の被害が増えた要因として、被害発生市町村数が増えたと聞いています。

果樹の種類については情報を持ち合わせておりません。

### 【村上委員】

令和2年度の数値については速報値の段階なので、これから詳細を確認していきます。

### 【藤本委員】

ありがとうございます。このまま増えると、凄い増え方になりそうなので気になったところでした。

### 【菅野委員】

イノシシの捕獲頭数が年々増えてきており、生息数が気になります。個体数推定はイノシシでは難しいとされていますが、大体でいいので分かる範囲でお知らせいただければと思います。

【事務局】

当課としても生息頭数を推定のうえ、目標値等が定められれば効果的な捕獲及び捕獲意欲の促進につながるのではないかと考えてはいますが、シカと違って、イノシシは痕跡の調査の指標がなく、捕獲頭数に頼るしかないところです。また、岩手県は他県に比べて捕獲頭数が少なく県全域での個体数推定は困難と考えています。この件については専門家から同様のご意見頂いているところです。

【宇野委員】

なかなかイノシシは頭数が読みにくいです。本当は頭数が分かると捕獲目標を設定でき、捕獲のモチベーションに繋がると思いますが、研究が進んで頭数が出せるようになればと思っています。

【村上委員】

他県では、生息数をどんな感じで掴んでいて、目標設定しているのか知りたいです。

【事務局】

個体数推定の手法については当課でも情報収集はしておりまして、最新のやり方ですとカメラを使った手法があると聞いております。それについては宇野先生がお詳しいと思いますので、ご助言頂ければと思います。

【宇野委員】

宮城県でも今年からやり始めています。レストモデルと言ってカメラを山の中に何台も設置して、映ったイノシシの数から推定する方法です。兵庫県で開発された研究で、宮城県でどのくらい数が出るのかをテストでやってみようという動きになってはいますが、イノシシが居ない所に仕掛けても労力もお金もかかります。今後、どうなるか分からないという状況です。

【宇野委員】

ドローンの話がありましたが実施した結果が分かれば簡単に教えて頂きたいと思っています。

【村上委員】

ドローンについては、生息数や生息域が分からないので赤外線カメラを使って、何処に居るか調査しています。その中で、侵入経路が分かり、その辺にワナを仕掛ければ良いというような形までは来ていて、捕獲実績にも繋がっているのではないかと思います。

【宇野委員】

それもまた期待したいと思っています。

【天川委員】

資料の4ページの農業被害で、水稻が令和元年から令和2年にかけて倍近く増えていますが、水稻被害の内容は、米そのものを食べられたとか、どういう内容でしょうか。

【村上委員】

イノシシは豚と一緒に掘り起こし等の被害が結構あったと思います。速報値なのであくまで推定ですが、今までの被害状況だと、春先の田植えの頃に、水を張った田んぼでの泥浴びによる被害の他、米も食べる被害は一関市で発生したと聞いています。

【事務局】

当課でも、固くなる前の柔らかい米を食べに来るという話を聞いた事があります。

【天川委員】

参考として、雫石町の状況ですが、夜にイノシシが来ているという連絡があり、実際に見に行ったら、田んぼで実った米を直接パリパリ食べていました。

また、イノシシが収穫直前の田んぼに入って稲を倒したりゴロゴロすると、その田んぼの米全体が、その時は分からないのですが、炊いた米がイノシシ臭くなる事があり、農家にイノシシが入った田ん

ぼの米は出荷しないようお願いしていました。そうした場合、半分くらい踏まれた田んぼでも一枚分の被害になる事になります。

**【藤本委員】**

私、去年まで福島県にいましたが、福島県でもそういう話がありました。8・9年程前ですが、ちよっとでも田んぼにイノシシが入った米は匂いが移るから出荷しては駄目という話でしたが、そんな事はなく、JAがちゃんと引き受けるから安心してほしいとしました。イノシシが入ったところはおささないでもらいたいが、その周辺については購入するという話にはなまって収まったという話です。触って匂いが付いているなら分かりますが、全然触っていない米なのに匂いが付くという事はそうそうありません。過剰に言い出すと被害額がどんどん増えていきます。今後どんどん生息域が北に上がっていく傾向にあるので、今後そういう話があるかもしれません。福島県内では踏まれた物を出荷するのはないですけども、踏まれた田んぼの米が全部駄目とはなっていないようです。

**【事務局】**

当課で市町村を回った際、畦畔の掘り返しなどの農業被害額に出ない被害について把握する方法がないだろうかという要望を受けた事があります。

**【藤本委員】**

市町村が調査した値が、県、農林水産省を経由して発表されているのですが、整合性や増加理由などについて意見を求められるのが私の職場です。全国レベルで見ると、これはちゃんと積み上げられた数字なのだろうかというところがあります。数千万円の被害が翌年にはゼロだったりします。

イノシシに関しては、ちゃんと積み上げているところがあると思うのですが、被害額は農作物の被害なので、例えば田んぼの中で掘り返されたら当然作物に被害は出ますから被害額は出るのですが、畦畔の場合は、農業被害ではありますけど計上されない事になります。この点は我々の方でも問題と考えています。きちんと積み上げられた数字とそうでないものがいっしょくたになった集計で、増えた・減ったと言うのは、様々なところに迷惑がかかってしまう。今の集計方法は市町村にかなり負担が大きいだろうというものもありますので、やり方をもう少し考えなければいけないと思っています。先ほど要望があったように農作物だけではなく、実態の被害としても把握しなければという課題はありますので、努力をしていこうと思います。

**【宇野委員】**

私も臭いについてよく聞きます。特に臭いの付いたお米を収穫せずに放置しておく農家があって、イノシシの餌場になって、ずっと来ているという話があります。もし、その米を収穫しないのであれば攪拌する等してエサ資源を低下させることが重要だと思います。

資料2の指定管理鳥獣捕獲等事業の評価についてコメントがあればお願いします。

今回は雪が多かったため目標の53%になってしまっていますが、捕獲頭数自体は90%増で猟友会には尽力いただいたと思います。大変な作業だと思いますがいかがでしょう。

**【菅野委員】**

雪が多かったので、狩猟者が山に入れなかったのが頭数減の大きい原因だと思っています。ただ、雪が多いからこそ、餌を撒いて誘引して狙撃をする方法もあると思います。岩手では、まだやっている人は少ないとは思いますが、インターネットなど見ると外国ではよくやっているようです。安全面とか様々な事を考えると無理なのかと思いますが、やってみる価値はあると思います。雪が多い時は当然イノシシの餌が少なくなるので、様々な餌を撒いて誘引して狙撃をする方法を試してみてもいいと思っています。

**【宇野委員】**

藤澤委員はどうか、昨年度の捕獲実績についてコメントあれば。

**【藤澤員長】**

雪が降る直前まではかなり猟友会の方々も猟に行っていたのですが、雪が降っては山に入る事ができません。姫神山、川井の辺りは雪が降ると入れなくなってしまいますので、除雪してでも入るべきだと思います。山奥に入ればシカ、イノシシは確かにいるので除雪対策もある程度考えていただきたいと思います。

**【天川委員】**

去年の冬、凄く気になる事がありました。12月上旬・中旬にドカ雪が降って、すぐ根雪になったのですが、12月上旬ぐらいになったら雫石のイノシシがパタっといなくなりました。それまでは親子連れの群れが頻繁に目撃され、畦畔の掘り起こしの報告があったのですが、家族連れが一切いなくなりました。ただし、春からまた来ています。その辺の動き、何かご所見ありましたらお願いしたいです。

**【藤本委員】**

その辺は不明でして、岩手はまだ密度が高くない地域なのでイノシシに自由度があって、冬の間、風当たりが強い場所は避ける事があるのではないかと個人的な感想を持っています。一方でそんな事はないと言う人もいます。西日本の非常に高密度の所に行くと、いい餌場があったら雌を中心とした家族は、その場所から動かないという傾向があります。イノシシは季節によってあっちこっちと移動することはないと言われていますが、東北だと避暑地と寒さを避ける土地が二つぐらいあって、行ったり来たりしているのではないのか。それは密度が低いからなのか、密度が高くなっても東北のイノシシはそういう行動をとるのかはわかりません。

**【宇野委員】**

イノシシの生態については不明な点があると思います。環境保健研究センターで研究テーマにしているか、もしくは所見をお持ちでしたらコメントをお願いします。

**【環境保健研究センター】**

今のところは、研究としてイノシシを取り上げる予定は無いです。

**【宇野委員】**

事務局は何かありますか。

**【事務局】**

イノシシの生息状況のモニタリングについては、この後、資料3で今後の計画の話を見せていただこうと思っています。今は農業集落アンケート調査で、広く浅く県内のイノシシ状況の把握に努めているところですが、今後はGPS調査が有効ではないかと考えています。岩手県のイノシシがどこを動くか、季節変動があるのか、環境・雪の影響は受けるのか、一年を通して調べるのが効果的と考えています。

**【宇野委員】**

他にご意見ありますか。(意見等なし)

それでは、指定管理鳥獣捕獲等事業の評価については、事務局案の通りご了承いただけるという事でよろしいでしょうか。

次に、今年度のイノシシ管理対策について事務局からよろしくをお願いします。

**【事務局】**

(資料3により説明。)

**【宇野委員】**

ありがとうございました。今年度の計画についてご意見はないでしょうか。

**【藤本委員】**

GPSを使った調査は、県の直営事業ですか。

**【事務局】**

はい。本年度の予算は既に固まっていますので、GPSは来年度以降の予定であり県直営になると考えています。

**【藤本委員】**

いつからでも、GPSをやるのは大変良いと思います。注意すべき点として、イノシシは長期追跡が難しいという事です。チャレンジは是非していただきたいですが、数か月持てばいい方だと思います。これはイノシシが太る痩せるを繰り返すのが正常な動物だからという理由です。痩せた状態で落ちないように付けると太った時首が締まってしまう。

さまざまな方がGPSに限らず電波発信機で移動追跡をして、どういう行動をするかを研究しているのですが、なぜこのように動くのかが分からない。もしかしたら隣に群れがいて、その関係でここに行くのを遠慮しているのかもしれない。そっちの群れを追いかけていないから分からないという事があります。ですので、地域で同時に多数追跡しないと何でこういう行動をするのかわかりません。東北は寒いからより暖かい所を求めて移動しているとしても、実はそうではなく、他の群れが来たという事を否定できない。ちなみに、シカの場合はそんな事はなくて、冬に皆でコロニーを作る時は一緒に動いたりします。

**【事務局】**

ありがとうございます。来年度の予算については、今頃から調整が始まりますので検討します。ちなみに、近くの群れで影響しあう場合、例えば何頭くらい調査するか目安があれば助かります。

**【藤本委員】**

例えば、ちょっと古い情報だとイノシシの群れは核家族なのか拡大家族なのかという話がありました。兵庫県の報告だとこの山では拡大家族だけど、こっちの山だと核家族だという事があって、それは場所による違いだと言っていました。おそらく餌資源による違いで、一つの場所で拡大家族化しても皆が食べていける状況だと、おばあちゃん、娘たち、その更に娘たち、孫世代までが一つの固まりとして同時に動く事が許される。一方で、皆が餌にありつけなくなるとバラけるのではないかと予想は出来ます。そうするとそれぞれの群れの形が違ったり、動く範囲が違ってきて、状況が様々になり、調査にお金がかかるため、失敗するとマズいので研究では誰も手を出さずにいるのだと思います。つまり、イノシシの行動圏はどれ位ですかと聞かれたら、なかなか一つには決められないというのはそういう理由です。場所の餌の豊かさによってかなり大きく変わるという事です。

**【宇野委員】**

何頭調査するというより、今の段階では雫石町でイノシシの親子が急に居なくなるという情報もあるので、そういう雌を狙って行動を少しずつ明らかにしていくのがよろしいのではないのでしょうか。

**【事務局】**

ありがとうございます。今、餌の情報が大事という事がありましたので、併せて調べていくと効果的だと思います。

**【藤本委員】**

生息環境に合わせる事が出来る動物、そういう特徴がある動物だと思いますので一回で全部を調べようとしなくてください。

**【宇野委員】**

他に何かありませんか。特に経費の支援に関して、新しい取り組みですのもう少し具体的に。

**【村上委員】**

これは県から国に対し、しっかりと捕獲経費をみてくださいという話をしていた中で、国においてこういう仕組みになりましたという事です。過去の5年間のうち、最多と最少を除いた3年の平均捕獲頭数を基準頭数とし、それよりも何割上回ったかによって補助が上積みされていくような仕組みです。あくまで、過去に捕獲した数に応じて補助金がかかるので、沢山獲っても高い額が貰えないという可能性があります。これからも捕獲経費について、しっかり上限まで全て報告できるよう国に対しても要望している状況です。

**【宇野委員】**

3年平均というのは市町村毎、協議会毎の平均ということでよろしいですか。

**【村上委員】**

そうです。

**【宇野委員】**

3ページにジビエ活用の研修会の開催という事がありますが、これはジビエ利用を推進していく方向なのでしょうか。放射能の関係が色々あると思うのですが。

**【事務局】**

岩手県内の野生鳥獣の放射線モニタリングは自然保護課で行っておりまして、今出荷制限がかかっているクマ、シカ、ヤマドリについて今でも放射性物質の検出は続いています。そういった中、大槌町の企業において全頭検査のうえでシカの一部出荷制限の解除がされています。県の窓口は農業振興課となっておりますので情報があればお願いします。

**【村上委員】**

シカ肉について大槌町で出荷されていますが、イノシシについては今のところ情報はありません。

**【宇野委員】**

それでは、訂正の箇所は無いようですので、案について了承とします。

次の議題です。議題4の第3次イノシシ管理計画案についてお願いします。

**【事務局】**

(資料4により説明)

**【宇野委員】**

資料4につきましてご意見をお願いします。

**【藤澤委員】**

7ページの地域ぐるみの捕獲体制の整備について、私のところに2、3の地域、部落で有害駆除隊の手伝いをしてほしい、集会をするので説明に来てほしいという依頼を受けています。こうした地域ぐるみの捕獲体制の整備はすごく大事な事だと思っています。さらには自分たちで狩猟免許を取りたいと燃えているところもあります。こうした取り組みを地域に浸透していただければ有害捕獲の効果は上がってくると思います。

**【宇野委員】**

ありがとうございます。非常に重要な意見だと思います。ちなみに地域はどの辺ですか。

**【藤澤委員】**

盛岡の東側です。かつてないほどイノシシが出ていて、ブルーベリー畑が掘り返されているのを見たら恐ろしさを感じる程でした。1m近く穴を掘っている所もあります。そういう状況なので箱ワナ

をかけてくださいという農家からの要望があります。箱ワナだと入らないですが、地元の農家の要望ですので箱ワナをかけてはおります。でも、自分が獲っているのは全部くくりわなです。

**【宇野委員】**

7ページの上の方に箱ワナの使用を優先して実施すると書いてありますが、これをくくりわなに直してもいいでしょう。

評価のシカ部分でも銃によるまき狩りの捕獲効率が非常に高く、ワナや括りは0.03とかでしたが、まき狩りは0.3ぐらいで1回当たり三人が行けば一頭獲れるような計算になっています。

**【藤本委員】**

私は、わりと箱ワナ推進派です。あくまで個人的な話ですが、東北どこでも箱ワナで獲れないと言いますが、乱暴な物言いをしますけど下手なのです。やってこなかったから当たり前ですけど、長期間で見ると、最初はくくりわなが獲れて、段々箱わなが上手になって獲れてきて、最終的に一番かかるのがくくりわなです。西日本、中国地方では、どうしても獲れない個体をプロフェッショナルがくくりわなで獲ります。東北はくくりが獲れて箱では獲れない状態なのだと思います。

なぜ、箱ワナにこだわるかと言うと、出ている複数頭を同時に獲る事ができるからです。これは括りでは難しい。大量に括りを用意しても、例えば5頭一緒に出てきたら5個のワナがないと獲れないし、目の前で自分の兄弟が捕まるのを見て学習する個体がでるのがくくりわなの良くないところです。出てきた個体を群れごと獲るのが重要だと言われていて、出てくる群れを100m向こうから誘引して、全部の個体の後ろ脚が全部箱ワナに入ったのを確認してトリガーが動くように設定するという技術がありますが、そこまで出来る人は居ませんし、専業でやらないと難しいかもしれません。時間的に言うと誘因開始から群れを丸ごと獲るまで大体1週間くらいと言われていますが、そこまで至っていません。被害対策として農地周辺に群れが出てくるのだったら、群れごと獲る事が一番いいので、箱ワナを使っていく選択肢を消してはだめだと思います。どちらも上手になっていただかなければいけないと思っています。問題は、雪が降る地域は冬の間使えなくなる可能性があるという事です。雪が降らなくても寒い地域だとトリガーが凍ってしまうという事がありますので、その辺は地域によって臨機応変に考えながら実施することになります。

つまり、群れで出てきているのであれば、これを誘引して獲るべきで、群れで獲ることはくくりでは難しいので、箱ワナで有害鳥獣駆除をやるという芽を残していただきたい。ただ優先的にやる必要があるかどうかは、それぞれの実情で考えていただいて結構です。

**【宇野委員】**

ありがとうございます。

**【藤本委員】**

ついでお話しさせていただくと、最後の方に、市街出没と感染症対策を追加してはどうかということが書かれてありますが、これは追加した方が良くと思います。環境省がガイドラインを新しくしましたが、そこで押し出されていたのが、年度別計画をなるべく作りましょうというのと、市街地出没でして、豚熱対策については時勢に従って追加されました。特に目玉としているのが市街地出没の対策の強化です。

岩手に事例が無いという事でしたが、全国的にはそういう話が出てきています。世界的にも市街地に野生動物が出没して、病気を人間と共有してしまうことが問題になっていて、今後大きな問題になってくると思います。岩手は気温が低い地域ですので共通感染症は少なめですがゼロではありません。最初に問題になるのはダニだと思います。シカやイノシシが庭や畑にダニを持ち込んで、そこで作業していた人が同じダニに噛まれて病気をもらう、野兎病だとかライム病などがあり、野兎病は福

島市の病院で同定されています。少ないですが東北でもある病気なので、今後問題になっていくと思います。計画の中に項目を立てて、どのように対応していくかを考え始めることが重要だと思いました。

**【宇野委員】**

ありがとうございます。市街地出没対策、人獣共通感染症対策についても、次回の委員会で議論したいと思います。

**【事務局】**

わなの種類については、限定的にしないようにしたいと思います。

**【宇野委員】**

農地周辺に箱ワナを置くことは、クマを誘引してしまう恐れがあって、箱ワナを置いて餌を置くと大体 90%以上クマが来ます。農地周辺でクマを増やしている可能性があります。くくりわなに関して、岩手県猟友会の方はシカで上手な技術を持っていますので、他の東北の県とはまた違う部分だと思うので、くくりわな、箱ワナの両方を利用ができた方が良いと思います。

5 ページの定着地域、侵入地域、警戒地域について、事務局から殆どの地域で侵入しているので警戒地域は無くし、定着地域と侵入地域でいいのではないかという提案をいただきましたが、これについてどうですか。

**【村上委員】**

対象地域を分けて対策を作るという話ですけども、侵入地域と定着地域での重点対策の線引きが出来ないという事があります。事務局でも書いているとおり、境界の判断が難しく同じような対策になるのではないかと感じており、線引きしなくてもいいのではないかという一つの提案です。

**【事務局】**

ご意見ごもっともだと思います。ただ、難しいと思いますけど、対策を実施される方や住民への意識付けが大事になるのかなと思います。

関連として、環境省が新たに示したガイドラインの 44 ページを開いてください。市町村の鳥獣被害防止計画の調整という項目ですが、45 ページに表があって、各市町村との連携について書かれています。年間目標頭数を定めて、市町村毎の目標数を定め、その上で目標数を達成できないようなところ、実施が難しいところに指定管理の捕獲活動を注力する、こういった事を環境省では考えているようです。そういった観点からも各市町村において、自分の市町村がどういうエリアなのか、これくらい獲るというモチベーションを上げていきたいと考えています。

**【宇野委員】**

区域分けも戦略的に使うというのであれば意味があるのかなと思ったりもします。例えば環境省の優先度の部分に、侵入初期における対応の項目もありますので、上手く活用して戦略を立てていくのであれば区域を分けても良いという考えもありますし、先程の話のとおりやる事は一緒だからという考えもあると思います。

**【事務局】**

県内のイノシシの分布に偏りがあると思っています。県南・盛岡と沿岸・県北では捕獲実績の桁が違います。同じやり方、同じ意識でやるよりは、違う意識、違う目的、具体的な目標を設定するなどして捕獲を強めていくべきではないかと考えています。

**【宇野委員】**

他の委員いかがでしょう。(なし)

とりあえず、警戒地域は無くしてもいいのかなと思いますが、その他の二つの地域に関しては当面



残っていて、今後どこでも同じように定着しているようであれば解除していくという事でよろしいでしょうか。

他にご意見ないでしょうか。別の項目でも構いません。

私から一つ、年度別実施計画というのは作っていくというふうな事は書かれていますか。

【事務局】

実際には、毎年、この管理検討委員会で検討されています。ただし、シカと違って具体的な目標数は定めていません。年度毎に検討はしていますが、目標を定めるというのは難しいと思います。

【宇野委員】

この辺は順応的管理と短期的な目標について、もう少し議論があった方がいいのかなと思います。イノシシは自然増加率が非常に高く、5年の誤差がどうしても出てしまうので年度毎に検討し目標を作った方がいいというのが環境省のガイドラインのポイントに入っています。

【事務局】

この点に関しては、市町村からのご意見伺いたいと思っています。有害の計画ですとか3年毎に作られていると思いますが、実際、どういった期間・スケジュールで練り直したりするのか伺いたいです。

【宇野委員】

一関市さんは捕獲頭数非常に多いですがどうでしょうか。

【松川委員】

期間は3年間で作っていました。

【事務局】

3年間というのは現状を踏まえて見直しをされているのでしょうか。目標数は市として定めているのでしょうか。

【松川委員】

目標数は市として定めています。3年間で目標数を定めて計画を見直しています。ちなみに私は農地林務課ですけれども市の計画については農政課が所管しておりました。役所内でも同じ目標に向かって取組んでいるのですが予算が農政課だったり農地林務課だったり分かれているところがあってやりにくいという事があります。

【宇野委員】

雫石町さんどうですか。3年間だとそれだけ誤差があるので、もしかしたら1年毎に見直したほうがいいのかどうか、そういう事も含めて。

【雫石町】

雫石町の計画も3年で、何かあれば見直しており、毎年の年度末に何かしら変えています。イノシシに関わる部分は追加の動きが無くて、捕獲頭数の目標も定めています。去年は目標を大幅に上回りましたが、更に大きく上回る目標にはしていません。

計画書の見直しは、それなりの段階を踏んで検討・承認するので、事務的に毎年となると結構大変という気がします。現場では本当に毎日、イノシシ、クマで飛び回っていますので、様々な調査等への協力が難しくなる場面もあるかと思います。去年と今年で凄く変わった部分もあるので、5年は長い気はしますが毎年の見直しは厳しい。計画を見直す事によって県の予算付けが連動する部分もでてくるかもしれないのであれば協力させていただきたいと思います。

【宇野委員】

国のガイドラインをもう一度検討していただいて、ここに出た意見を反映していただければと思

います。

他にご意見ありますか。

【天川委員】

GPS 調査について計画に盛り込む事は大変良い事だと思いますが、実施する事になると予算も絡みます。来年からやるという事になると当市でも来年度の予算を検討してみます。具体的な案はお持ちでしょうか。

【事務局】

検討中です。

【天川委員】

町職員に協力させますので、雫石町で調査していただいても構いません。

【事務局】

効率的に調査が出来るのはいい事だと思いますので検討します。

その他について、この場で全ての意見をくださいというわけではなく、お持ち帰りいただいて気づいた点がありましたら当課までご連絡いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【宇野委員】

議事の4はこれで終了してよろしいでしょうか。

次に（5）事務局の方からその他何かありますか。

【事務局】

（資料の説明）

【宇野委員】

ありがとうございました。

この他、何かありますでしょうか。

ないようですので、以上で議事は終わります。

【事務局】

本日は長時間に渡りご協力いただき大変ありがとうございました。

以上をもちまして、令和3年度第1回イノシシ管理検討委員会を終了します。

ありがとうございました。